京都ブランドフォーラム in 東京

<主　催>
京都ブランド推進連絡協議会
（京都府・京都市・本所）

『京あるきin東京2016』のオープニングイベントにあわせて、2月13日に開催された『京都ブランドフォーラムin東京』。今回は、京都が世界に誇る有形、無形の文化遺産にかかわる3名のパネリストをお迎えし、日本人の心のありように大きく影響を与えてきた文化遺産の歴史や継承について、お話しいただきました。

《 コーディネーター 》
久保 美智代さん
アナウンサー・旅する世界遺産研究家

文化遺産としての京都
～大切にしたい日本人の心～

冷泉 貴実子さん
冷泉家時雨亭文庫
常務理事

尊い価値観を守ること

冷泉家は藤原定家の流れをくむ和歌の文化を守り伝えて来た家系で、完全な姿で現存する唯一の公家屋敷でもあります。今も蔵の中には800年以上にわたり守られてきた定家による古今和歌集の写しや私歌集、日記など国宝5件をはじめ重要文化財48件がおさめられています。長い歴史の間には、戦災や火事などさまざまな危機がありましたが、一番怖いのは文化の価値観が変わることです。明治維新や終戦などで、伝統文化に対する価値がないがしろにされた時に、流出や損失が起こるのです。しかし冷泉家には、どんな苦労をおしても受け継がれてきたものを守らなければという思いがありました。京都には日本の文化の根底をなすものがあります。その価値を二度と見失わないでほしいと思います。

千　宗守さん
茶道武者小路千家　官休庵
第十四代家元　不徹斎

伝統は時代とともにある

武者小路千家官休庵は、千利休の孫、宗旦の男子３人が継いだいわゆる「三千家」のひとつで、利休の時代から400年、茶の湯の歴史を重ねてきました。大きな特徴は、三千家とも京都から出なかったということです。江戸幕府が開かれた時に瀬田の唐橋まで行ったものの引き返したという逸話もありますし、明治維新にも移転の話がありましたが、結局東京に本拠地を移さなかった。やはり茶の湯は京都の風土、文化、そして水があってこそ育まれるべきものなのです。ただ、人の生活が変わっていくなかで、かたくなに昔ながらのやり方を踏襲するだけでは、伝統はいつか廃れてしまいます。守るべきものを大切にしながら、時代に応じて柔軟に変化していくことも欠かせないと思います。

神居 文彰さん
平等院　住職

文化財は、未来へお返しするもの

平等院は、藤原頼通が永承７年（1052）に創建した寺院。なかでも鳳凰堂は、創建された場所にすべてのものが現存し、千年たった今も平安の美と感性にふれられる奇跡的な遺構といえます。その歴史は、修理の歴史でもありました。2014年に完了した「平成の大修理」では、さまざまな調査研究で明らかになった創建当時の彩色豊かな姿の再現を目指しました。私は文化遺産を「護る」ということは、「未来へお返しする」ということだと思っています。千年前からあるものを、その背景にある先人の思いまでも含めて、未来に生きる方々にも同じように見ていただくことこそ、我々に求められる姿勢ではないでしょうか。現代を生きるみなさんも、今の鳳凰堂を見て何かを感じとってほしいと思います。